

椅子研究会 第2回 講演会

開催日時 2009年9月12日(土)14時～17時

会場 安曇野市穂高の“ギャラリー牧ヶ原”

「ウインザーチェア／イギリスとアメリカ」

講師 デニス・ヤング（安曇野市在住、木工家）

村上 富朗(むらかみ とみお)（御代田町在住、木工家）

参加者数 47名

(報告者)松山ちえみ

椅子研究会の第3回の講演会は安曇野市穂高の“ギャラリー牧ヶ原”で「ウインザーチェア／イギリスとアメリカ」と題して、デニス・ヤング氏と村上富朗氏の両氏から英米のウインザーチェアについてのお話をお聴きした。

谷さんから信州木工会員以外の方々へも呼びかけていただいたので、県外からも含め、参加者47名という盛大な講演会だった。

また、安曇野市豊科の故村田新蔵氏のコレクションを夫人のご好意によりお借りして展示させていただいた。

故人が戦前より収集された17～18世紀頃の貴重な椅子が20数点もあり、見ごたえのある展示だった。

デニスヤング氏はイギリスのウインザーチェアについて、もともと庶民の生活道具として生み出されたという歴史や、ハイウィッカム地方の職人の道具、材料、製作の様子などを写真を交えてお話いただいた。

昔は脚や背のデザインもシンプルでペンキが塗られて、屋外で使用されたりもしていたが、チップペンダール等によりデザイン化、量産化されて上流層にも広がっていったらしい。

ハイウィッカムにはブナの森がたくさんあり、使用する材料はブナ、ニレ、オークなど、曲げ木の部分にはイチイなども使われるそうで、生木のまま削ってから乾燥させるとのこと。

ブナの森の中でジャケットを着て作業している様子や、木を1本切り倒すと1本植えるといったお話が印象的だった。

村上富朗氏からは移民とともにアメリカに渡り独自の展開をして行ったアメリカのウインザーチェアとイギリスの違いや、ご自身のアメリカでの体験などのお話しをお聴きした。

コムバックとポーバックに分けられ、脚のロクロはイギリスよりも装飾に富み、そのデザインで製作年代や産地などが分かるということだ。

使われる材料もメイプル、ポプラ、アッシュ、パインとイギリスとは異なり、それが背や脚などのデザインにも影響していったらしい。

村上氏は1970年代にアメリカに滞在されていたが、実物から原寸図をおこして製作されたのではなく、自己流(とおしゃっていたが)で図面と作り方を確立されたそう。

お持ちいただいたお二人の製作された椅子に掛けさせていただいたのも大変参考になった。

両氏のお話の間に村田夫人から哲学者だった村田新蔵氏がどういった意図や経緯でこれらの家具を収集されたのかをお聞きしたが、これが個人の力で収集されたものであることに驚かされた。

今回これだけの数の椅子を間近に観る事が出来たのは大変貴重な体験だったが、残念なことに豊科町とのトラブルから、夫人の希望にもかかわらず一般公開の目処が立っていないようだ。

できるだけ早くきちんとした展示ができる状況が整い、公開されるようになる事を願うばかりです。

最後においしいコーヒーをいただきながら質疑・雑談があった後、散会しました。

第2回講演会



イギリスウインザーチェアを中心として、デニスヤング氏



アメリカウインザーチェアを中心として、村上富朗氏



ウインザーチェア(ヤング作)



ウインザーチェア(村上作)



ウインザーチェア(村田C)



ウインザーチェア(村田C)



ウインザーチェア (村田C)



ウインザーチェア(村田C)



ウインザーチェア (村田C)



ウインザーチェア (村田C)



椅子 (村田C)



椅子 (村田C)



椅子 (村田C)



椅子 (村田C)



ウインザーチェア (村田C)



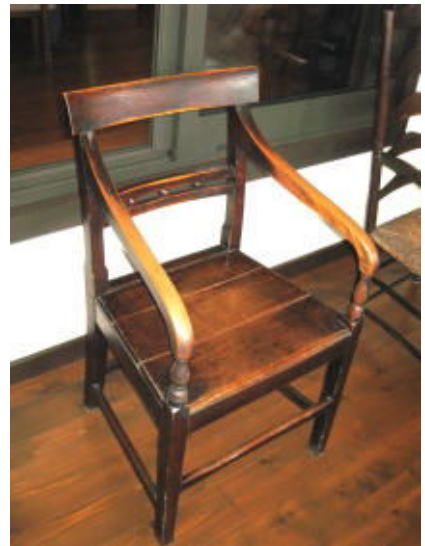
ウインザーチェア (村田C)



椅子 (村田C)



椅子 (村田C)



椅子 (村田C)



ウインザーチェア (村田C)



ウインザーチェア (村田C)



椅子 (村田C)